

令和5年度

事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

I. 法人の概要

(令和6年3月31日現在)

法人の名称	公益財団法人吉野川紀の川源流物語
設立年月日	平成14年4月1日 平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立
定款に定める目的	この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要な拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的とする。
定款に定める事業内容	この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 ① 「吉野川源流－水源地の森」体験学習プログラムの提供 ② 森づくり体験学習プログラムの提供 ③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援 ④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成 (2) 流域交流・啓発にかかわる事業 ① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施 ② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成 (3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 ① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施 ② 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施 ③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施 (4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 ① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営 ② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに付帯する施設の管理 (5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売 (6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技術によって対応可能な業務の受託 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内で行う。
主たる事務所	〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 1374 番地の1

<p>役 員 等</p>	<p>評議員（五十音順）</p> <p>泉谷 隆夫（川上村議会議長） 浦西 勉（元龍谷大学教授） 兼子 真矢（和歌山県企画部地域振興局地域政策課長） 新井 寿彦（川上村教育委員会次長） 杉本 晃一（川上村住民課長） 建畠 克佳（和歌山市企業局長） 谷本 光司（一般社団法人 近畿建設協会理事長） 堤 健（橋本市上下水道部長） 栃岡 清人（大阪工業大学 学長室事務局長） 中平 木由造（川上村議会総務文教委員長） 西野 浩行（奈良県水道局長） 野田 純一（奈良県水循環・森林・景観環境部長）</p> <p>理事（代表理事・業務執行理事を除き五十音順）</p> <p>栗山 忠昭 代表理事・理事長（川上村長） 阪口 和久 代表理事・副理事長（川上村副村長） 今福 和男 業務執行理事（川上村水源地課長） 西久保 智美（コミュニティーライター） 橋本 裕行（明治大学文学部兼任講師 榎原考古学研究所特別研究員） 前 浩輔（川上村立川上小・中学校校長） 宮口 侗迪（早稲田大学名誉教授） 横田 岳人（龍谷大学 先端理工学部 環境生態工学課程准教授） 芳川 一宏（奈良県水循環・森林・景観環境部 水資源政策課長）</p> <p>監事（五十音順）</p> <p>辰巳 八郎（川上村監査委員） 中島 誠（税理士）</p>
<p>主 な 会 議</p>	<p>定例理事会 6月 6日（前年度事業報告及び決算の件ほか） 定時評議員会 6月23日（評議員選任の件、理事選任の件 前年度事業報告及び計算書類等の承認） 臨時理事会 6月23日（業務執行理事選任の件） 公益法人立入検査 7月25日 臨時理事会 10月16日（利益相反取引について） 臨時理事会 10月27日（利益相反取引について） 臨時理事会 11月17日（立入検査結果に伴う是正対策について） 定例理事会 3月21日（次年度事業計画及び収支予算書の件ほか）</p>

II. 事業の状況

公益事業Ⅰ		環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業			
<p>吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等のプログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する。</p>					
	時期	回数	参加数等	概要	
水源地の森ツアー(一般公募型)	9・10・3月	3回	39名	水源地の森での体験学習。	
団体(企業含む)研修等での利用	通年	33件	784名	「水源地の森」散策や森づくり体験等。	
環境教育支援(学校対応)	通年	82件	5,491名	小学校から大学の見学案内及び出張源流教室(オンラインを含む)	
森と水の源流館 ESD 授業づくりセミナー	6・7・8・2月	5回	107名	近畿 ESD コンソーシアムとの連携事業で教員のための授業計画づくり。実践報告会(2/3)。	
源流学の森づくり	11月	2回	37名	森林の維持管理作業の見学・体験。計画的な森林育成が保全に役立つことを伝える。	
源流人会の運営	通年	-	個人 47 家族 18 団体 6	会員募集、管理。定期情報の発信。山の神行事等会員限定行事の実施。調査報告会(1/27)。	

公益事業Ⅱ		流域交流・啓発にかかわる事業			
<p>吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。</p>					
	時期	回数	参加数等	概要	
草刈りボランティアの機会づくり (川上村「未来への風景づくり」)	5月	1回	5名	旧白屋地区の草刈り・外来種の駆除を行い、水源地域の環境保全にかかわる人材を育成。	
夏休み(館内)プログラム	7月	10種	130名	村民のほか、交流のある施設・団体・個人による工作体験・観察会・販売の出展などを実施。	
水源地の森守募金	通年	-	129,839円	令和6年度以降に設置する防鹿柵の資材を購入した。	
流域等各地へのPRキャラバン	通年	7回	-	匠の聚アートフェスタ、大淀iセンターの啓発イベント、和歌山市「しらすまつり」等に出展・参加。	
機関誌『ぼたり』発行	7・11・3月	3回	-	財団の動きや各事業報告・調査レポートなど。	

公益事業Ⅲ	源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域をはじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
吉野川紀の川しらべ隊	5月	2回	13名	参加者公募型の調査。人文系の調査と自然系の調査を行った。
川上村の生活・風習など民俗学的変貌調査	通年	—	—	川上村の昔の暮らしが分かる写真収集とヒアリング調査。
水源地の森下層植生調査	6・10月	3回	5名	ニホンジカの食害を防ぐ防鹿柵を設置し、下層植生の回復状況の調査。ナラ枯れの被害状況の調査。
流域連携によるフィールド調査	通年	11回	—	流域の他団体と源流部および吉野川紀の川流域の自然実態調査、比較。
源流部における斜面崩壊地での対策実態調査	12～2月	—	—	村内のニホンジカの生息密度の推移を調査。
他機関との合同調査	通年	—	—	和歌山県立自然博物館・摂南大学との魚類調査。京都大学と川上村の昔の暮らしについての調査。奈良県特定希少野生動植物コサナエ保護管理事業への協力。「奈良県レッドデータブック」改訂に向けた検討作業。ほか。

公益事業Ⅳ	拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業			
水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
「森と水の源流館」管理	通年	—	利用者 11,435名	日常の維持・管理、運営、定期点検、清掃、補修。
「吉野川源流—水源地の森」管理	通年	37回	—	散策路周辺の見回り・点検、補修。(入山者 321名)
「水源地の森交流施設」管理	通年	12回	—	水源地の森に付帯する休憩・管理施設の見回り・点検、補修。

収益事業Ⅰ	ミュージアムショップ事業			
拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。				
概要				
オリジナル商品(副読本・絵本・ポストカード・楽曲CDなど)、地域の自然・歴史・文化・伝承を紹介した商品(書籍・地図など)、村内で生産された商品(「かわかみの水」「緑のダムクッキー」、雑貨品など)、自然観察用品(野帳・ルーペなど)を販売している。				

収益事業Ⅱ	受託事業		
他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受託し、実施する。			
	委託者	時期	概要
和歌山市民の森管理業務委託	和歌山市	9/13～12/31	3haの二次林管理作業。
和歌山市民の森源流体験学習業務委託	和歌山市	9/13～12/31	10/14・21に和歌山市の公募による参加者に「水源地の森」散策等の学習会を開催。
啓発用間伐材割箸セット製作・配布	森林環境保全促進 和歌山市議会議員連盟	9月～2月	間伐材利用の割箸と教材となる啓発パッケージを製作、市内小学校4年生に配布。
水のつながりプロジェクト業務	川上村	5/16～2/29	農作業や源流散策など平野部との相互交流事業を支援、報告書等作成。
水源地の村づくり促進映像プログラム製作業務	川上村	5/1～11/30	大滝ダム10周年記念セレモニー行事にて上映する映像プログラムDVDを製作。
大滝ダム竣工10周年記念プロジェクト推進支援業務	川上村	5/8～3/19	10周年を記念し、職員研修の企画・運営、湖面利用の試行支援など。
第5次川上村総合計画推進等支援業務	川上村	5/8～3/19	コミュニティプラン推進支援、観光プラン推進支援業務。
第5次川上村総合計画後期基本計画進捗管理支援等業務	川上村	5/8～3/19	第5次総合計画進捗状況の把握、進捗管理報告書の作成。
第6次川上村総合計画策定等支援業務	川上村	5/22～3/25	第6次川上村総合計画の策定指針のとりまとめ。
神之谷地内混交林誘導整備事業管理業務委託	川上村	12/1～2/29	混交林誘導整備事業で植栽した苗木の生育状況の確認、生育状況の評価。
原木から子実体への放射性物質の移行に関する検証事業	(株)都市環境研究所	6/16～3/15	検証用試験体の確保、検討委員会の運営、事業報告書の作成等支援。
森林環境学習支援業務	顔の見える松阪の家づくり推進協議会	6/1～12/25	森林環境学習支援、活動報告書作成。
顔の見える松阪の家づくり推進協議会支援業務	顔の見える松阪の家づくり推進協議会	6/1～3/19	顔の見える松阪の家づくり推進協議会による取り組み支援活動報告書作成。

公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森ツアー」のほか、源流地域の自然や文化にふれる体験型ツアーを含めた研修の受け入れを行った。

【一般公募型 水源地の森ツアー】

9月・10月・3月に開催、39名が参加。



【団体・企業の研修等での利用】



奈良県フォレスターアカデミー(9/26)



関西電力労働組合(10/20)

【源流人会の活動】

水源地域の環境保全にかかわる人材育成。山村で培われた知恵、技を「源流学」として共有。



「源流学の森づくり」(11/23)

【環境教育支援(学校対応)】



三宅町立三宅小学校 4年生(5/2)



畿央大学健康科学部(5/9)

【森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟 出前講座】



和歌山市立野崎小学校(9/25)



和歌山市立木本小学校(11/24)

【森と水の源流館 ESD 授業づくりセミナー(近畿 ESD コンソーシアム)】

実際の授業の単元計画作成(授業づくり)を奈良教育大学と連携支援。



奈良市立平城小学校 4年生体験学習支援(9/8)



和歌山大学附属小学校 3年生「3B 宣言」



ESD 授業づくりセミナー実践報告会(2/3)

公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

他の地域へ出での交流や、川上村の行事に出展するなど、可能な機会と手段で発信を行った。

【源流のつどい】

旧白屋地区での草刈りボランティアと同時に外来植物についての学習と駆除。(5/27)



【夏休み館内プログラム】(「夏休み宿題応援ワークショップ大集合！」)

村内外の施設・団体・個人に呼びかけて工作体験・物販、職員による観察会などを行った。(7/17)



「勾玉づくり」



「お散歩自然観察会」

【流域等各地での情報発信】



全国地域リーダー養成塾修了者研修会(9/28)



ふるさとづくり大賞団体表彰(総務大臣賞)受賞報告会(3/16)

【PR、啓発活動】



道の駅大淀iセンター「しないでください」啓発(8/6)



「和歌浦しらすまつり」(11/3)

【機関誌『ぼたりに』No.57・58・59号発刊】

活動報告や調査結果などを記載し、夏・秋・春の定期発刊。源流人会会員、村内観光施設、村内図書館、国会図書館ほかへ配布している。


大滝ダムを特集した58号は、大滝ダム10周年記念セレモニーにおいて来場者に配布した。




公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

源流域の環境の実態把握と周知をねらいとして、流域をはじめ都市部の人々に協力を呼び掛けた参加型の調査も実施した。

【吉野川紀の川しらべ隊】


「川上村のうつり変わりをしらべよう」	
調査内容 収集した写真や資料の整理、アーカイブ化の作業	実施期間、時期 令和5年5月6日
概要 参加者を公募し6名が参加。 川上村民俗調査において川上村の方々からお借りした写真・資料の整理作業を実施。 写真を大型モニターで拡大投影するなどして資料の分析も行った。	


「川上村の生きものをしらべよう」	
調査内容 川上村西河(蜻蛉の滝)の生物調査	実施期間、時期 令和5年5月7日
概要 参加者を公募し7名が参加。 川上村の環境を村に生息する生きものから学ぶ観察会を実施。他の参加型観察会の結果と比較した。	

【その他 参加型観察会】


吉野川紀の川流域の生きもの調査	
調査内容 吉野川紀の川流域及び大和川源流域の昆虫相比較	実施期間、時期 令和5年4月～令和6年3月
概要 川上村内及び「山野草の里」(奈良県桜井市)、「根来山げんきの森」(和歌山県岩出市)の観察会で確認した昆虫類から、その地域の特徴をつかむ調査を実施。森と草地のバランスが良い多様な環境が残されていること、土地利用に準じた昆虫相が形成されており、種相の偏りが少ない、人の暮らしを反映した昆虫相となっていることが確認された。	—

【水源地の森自然環境調査】

水源地の森下層植生調査・ナラ枯れ被害状況調査	
調査内容 「吉野川源流-水源地の森」内の下層植生を調査	実施期間、時期 令和5年6月・10月
概要 平成18年度より継続しているモニタリング調査。 「水源地の森」内に設置した防鹿柵内外において下層植生を比較し、ニホンジカの食害による影響と防鹿柵内の植生回復状況について調査した。 下層植生調査に合わせて「水源地の森」内で発生しているナラ枯れの実態調査も行った。	

川上村内の自然環境調査	
調査内容 シカ糞粒法による個体数調査	実施期間、時期 令和5年12月～令和6年2月
概要 川上村内における鳥獣害状況把握のため、糞粒法によるニホンジカの推定生息密度を調査した。 前年度に比較して、ニホンジカの生息密度が高くなっていることが確認された。	

【他機関との合同調査】

「川上村の生活・風習など民俗学的変貌調査」	
調査内容 川上村の昔の暮らしが分かる写真収集・聞き取り調査	実施期間、時期 令和5年5月～令和6年3月
概要 『川上村民俗調査報告書』の写真を集落・年代ごとに整理して将来的な公開・アーカイブ化を目指すため、主に白屋地区・井光地区・北和田地区にて村民への聞き取り調査を行った。なお、井光地区での調査は京都大学(地域林業聞取実習)との共同調査として実施した。	 京都大学との共同調査(井光地区 12/15)

水源地の森魚類調査	
調査内容 カジカ大卵型生息状況調査	実施期間、時期 令和5年5月～令和6年3月
概要 和歌山県立自然博物館及び摂南大学と合同で、全国的に希少なカジカ大卵型の生息状況を標識再捕獲法を用いて調査した。	 <p style="text-align: center;">調査風景(6/15)</p>

公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

【「森と水の源流館」の管理】

指定管理協定にもとづく年間の施設の維持管理・運営管理。

【企画展・コーナー展示】

企画展「吉野川・紀の川流域の生きもの」
和歌山県立自然博物館の協力で、吉野川・紀の川水系における河川環境と生物多様性について啓発(7/20～10/1)。

村民からの情報提供により採集したマミズクラゲを展示(10/21～11/5)



【冬の館内企画】



シアターのイルミネーション“モリナリエ” (12/9～2/27)



「さがそう“吉野”の宝もの」(2/17)
川上村と吉野川流域の“地域遺産”の価値を再評価する講演会とワークショップ。



映画上映会「吉野林業」(2/24)
吉野林業のドキュメンタリー映画の上映と展示コーナーでのミュージアムトーク。

川上村の自然・歴史・民俗が楽しめる

期間限定!

こ入館 **割引チケット**

一般 400円→300円
小中学生 200円→150円

プレゼント企画実施中!
受け付けで合言葉「しないてください!」と言ってください

森と水の源流館

道の駅 杉の湯 川上より徒歩5分

奈良県吉野郡川上村道1374-1
TEL 0746-52-0888 毎週水曜日休館
開館時間9:00～17:00(最終受付16:00)
チケット有効期限2024年1月4日～2月29日

期間中の入館割引チケットの発行

【会員等による展示】



葉っぱギャラリーにて「水彩で描く川の表情～須田泰一朗水彩画展～」(3/1～3/31)

源流人会会員である作者が、実際に訪れたことのある「水源地の森」ほか、水辺の風景を描いた作品

「吉野川源流－水源地の森」・「水源地の森交流施設」の管理

「水源地の森」及び休憩小屋・管理棟の定期的な見回り・点検・清掃・修繕を実施。



木橋の修理



散策道の修繕

収益事業（受託事業）

【水のつながりプロジェクト業務】(川上村)

大和平野土地改良区と川上村が共催する吉野川分水受益地と水源地域の交流事業。橿原市立鴨公小学校と川上小学校がそれぞれの地域で体験を行い、吉野川分水によるつながりを実感。



稲刈り体験(10/19)(橿原市内)



源流体験(11/24)

【和歌山市民の森管理業務・源流体験学習業務】(和歌山市)

川上村と「水源地保護に関する協定」を結ぶ和歌山市から、川上村の伐採後の天然林の二次林3haの管理を受託。また年2回、和歌山市民による源流体験会を開催している。



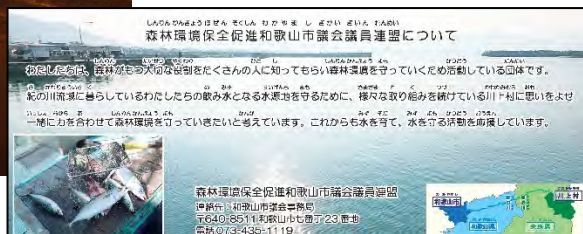
和歌山市民の森管理業務完了確認



源流体験学習会(10/14)

【啓発用間伐材割箸セット製作】(森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟)

間伐材を利用した割箸と教材となる啓発メッセージ入パッケージを製作。和歌山市内の市立及び国立学校法人の小学校51校の4年生に配布。



【水源地の村づくり促進映像プログラム製作業務】(川上村)

大滝ダム 10 周年記念セレモニー行事にて上映する映像プログラム DVD を製作。ネイチャーフォトグラファ内山りゆう氏を起用し、川上村が大切にする自然的価値と共存する大滝ダムをみせた。DVD400 部を製作し、来場者に配布。



【大滝ダム竣工 10 周年記念プロジェクト推進支援業務～職員研修会の開催】(川上村)

10 周年の年に年間で、職員研修の企画・運営、湖面利用の試行支援などの取組みを展開。職員研修会では、「大滝ダム誌」「川上宣言」「ダム技術者の背中」という水源地の村づくりに欠かせない文献や文言にかかわる講師を招いて、若手職員らに伝えた。この結果を今後の職員研修にも活用できる冊子にまとめた。



「大滝ダム誌の読み方」坂口泰一氏(9/22)



「ダム建設と地域振興」

竹村公太郎氏と栗山村長 対談を録画(11/18)



「川上宣言」誕生の頃」宮口侗廸氏(10/18)

【川上村第5次総合計画推進等支援業務】(川上村)

第5次総合計画推進支援として、いくつかの重点プロジェクトを具体的に進める支援を行った。

このうち、井光集落におけるコミュニティ活性化のひとつの取組みとして、かつて行われていた地芝居などについて聞き取りを行った。かわかみらいふの移動スーパールの訪問時にあわせた時間をいかし、聞き取りには京都大学の学生も参加した。



【森林環境学習支援業務】(顔の見える松阪の家づくり推進協議会)

三重県松阪市立幸小学校、西黒部小学校の森林環境学習を支援。原木市場・製材工場の見学と森林環境学習のレクチャー、木工体験。また別の日に森と水の源流館のノウハウである「学べる屋台」を活用した出張源流教室を実施した。



出張源流教室(幸小学校 1/18・19)

パブリシティ（新聞ほか掲載記事）

わかやま 市議会 だより

No.109 令和5年(2023年)5月1日発行

で生じる懸念に対し、その不安を解消した上で、進めていくことが重要であると考える。

民主クラブ



そうがわ あつし
寒川 篤

奈良県川上村との連携

問 本市と奈良県川上村は「吉野川・紀の川水源地利権に関する協定」を結んでおり、森林環境の保全事業を中心として様々な取組を行っている。

水源地である川上村との交流は、森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟が平成10年3月に設立されたことから始まり、今日に至るまで約25年間続いている。近年では、毎年、市内の小学校へ川上村から講師を招いて、出前講座を開催しており、子供たちに水源地利権の大切さを学んでもらっている。

豊かな未来づくりに不可

欠なのは、それを担う子供たちの心を豊かに育むことである。ふるさと和歌山市に注ぐ命の水の源である川上村では、源流の使命と責任の心を持った人を育み、本市では、命を支える水に感謝し行動できる人が育っていかねばならない。

双方の心が伝わる交流が途絶えないことが何よりの願いである。この双方の交流によって育まれている現状について、市長の思いはどうか。



小学校での出前講座の様子

答 交流を通じて、川上村の方々との結び付きが深まり、お互いを敬う気持ちも大きくなってきたと感じる。次の世代へこの結び付きを引き継いでいけるよう更に交流を進めていく。

問 小学4、5年生の授業の中で、紀の川の水及び水源地のことを教材とする学習について、現在の取組はどうか。また、毎年、一定数ずつ学校を指定し、何年かかけて市内全ての小学4年生が川上村を訪れることを支援できないか。

答 本市の小学校では、4年生の社会科の学習において、副読本を活用し、紀の川とその水源地などについて学習している。川上村での現地学習や出前授業を経験した児童は、その学習が貴重な体験となり、学習がより深まったと学校から報告を受けている。今後、研究指定校を中心に、更に研究を深め、各学校に研究成果を広めたいと考える。

川上「森と水の源流館」

工作教室や自然観察イベント

間もなく始まる夏休みの宿題に役立ててもらおうと、川上村追の環境学習施設「森と水の源流館」は17日、児童を対象にした工作ワークショップや自然観察イベントを開いた。

ワークショップには村内外の木工作家やNPO法人、行政機関などがブースを出し、吉野杉・ヒノキの端材や間伐材を使ったテックレス、おもちゃの車作りなどを教えた。

参加した児童らは講師や親の手

自作のおもちゃ完成！



完成したモトールを手にする参加者(右) 17日、川上村追の森と水の源流館

村内外の木工作家やNPOがブース出展 「夏休みの宿題に」

を借りながら取り組んだ。同村で手作り商品の販売や講座などを手掛ける「ツクル工房」の北彦美佳さん(53)は、長さ2本の棒に三つのオアシエギバランスよく糸でつるした「モトール」づくり教室を実施。オアシエはカンナで削った薄い木くずを何重にも巻いたもので、風でくるくる回ると木の香りが漂う。

和歌山県紀の川市から母親と訪れた、智弁学園和歌山小学校4年生の上村晃司君(9)は「モトール全体のバランスをとるのが難しかった。匂いが良いので寝室に飾りたい」と話した。

この日は、水源地の村の自然や歴史文化を生かした体験プログラムの企画運営などを行う「かわかみ源流ツーリズム」の事務所オープン1周年イベントとも連携。同村追の同事務所周辺では村産野菜の販売などもあった。

「大和川」の源流体感

桜井の里 児童ら水生生物を観察
山野草の里

子どもたちに、水生生物を捕えるための網の使い方を教える古山主宰 7月29日 桜井市三谷の山野草の里



県と大阪府を流れる一級河川「大和川」の源流の一つ、桜井市三谷の山野草の里で7月29日、源流の自然に触れる「ふるさと大和川源流体験ツアー」が開かれた。児童や保護者ら約40人が参加。NPO法人山野草の里つくりの会、NPO法人さくら菜の花プロジェクト、大和信用金庫、NPO法人奈良ストップ温暖化の会等による「大和川わくわくフェスタ実行委員会」主催。県と桜井市の後援。

参加者は2班に分かれ

て、竹クラフト作りや、水質調査・里山探察・生物が生息するピオトープの池の水生生物観察などを通じ

て、命を育む水の大切さを学んだ。ピオトープ池では、森と水の源流館（川上村）の古山暁・企画調査班主宰が子どもたちに水生生物の採取方法を教えると、子どもたちは夢中になって、カエルやドジョウ、ヤモリ、ゲンゴロウ、ミズカマキリ、タイコウチ、コオイムシなどを捕まえて観察した。事業は、2007年に組

奈良新聞 23.8.5

織された大和信用金庫（同市）と同信金役員職員の寄付からなる大和川基金を活用した大和川再生事業の一環として15年目の開催。同信金理事の鳥殿勝・総合企画部長は「普段触れることのない自然に触れ、自然の大切さを学んでいただけたら」とあいさつした。

読売新聞 23.10.24

ゆらり マミズクラゲ

川上で展示 淡水に生息

淡水に生息する珍しい「マミズクラゲ」が川上村内で見つかリ、同村の「森と水の源流館」で展示



川上村で見つかり、展示されているマミズクラゲ

されている。水質の変化に弱く短命で、長期飼育は難しいとされるが、可能な限り見てもらいたいという。

マミズクラゲは国内で唯一、淡水に生息。秋頃に沼やため池にいたることがある。水鳥に付着して運ばれるとみられるが、続けて同じ場所で見つかることはまれで、生態に謎が多く「神出鬼没のクラゲ」とも呼ばれる。

館職員の古山暁さん(42)が村民から「家の防火水槽にクラゲがいる」と連絡を受け、20日に約20匹を確認。うち2匹を採取し、翌21日から展示を始めた。

2匹の傘の直径はそれぞれ10ミリ、7ミリと極小。餌入り口近くに置かれた高さ20センチのガラス瓶の中



瓶の中央付近を漂っているマミズクラゲの展示（川上村で）

で、傘を膨らませながら上昇と沈み込みを繰り返している。

古山さんは「もしかすると皆さんの近所にもいるかも。身近な自然を観察するきっかけにして」と話す。

川上でトヨタソーシャルフェス 美しい吉野川 次代に 県内外50人がごみ拾い

地球の未来を守るためトヨタが47都道府県で展開する地域貢献活動「トヨタソーシャルフェス2023」の一環で、「きれいな吉野川を未来に残そうプロジェクト」(奈良新聞社主催、川上村など共催)が20日、



林縁部で放置ゴミを拾い集める参加者
20日、川上村西河

吉野川の源流・川上村であった。川遊び客らの放置ごみに悩む同村で、実際に環境保全を行動する取り組みに県内外から家族連れら約50人が参加した。水遊びの家族らでにぎわう同村西河のあ

きつ小野スポーツ公園を拠点に、村道を歩いて放置ゴミを拾い集めた。ゴミは可燃ゴミ、缶、ビン、金属などに分別。ゴミが落ちていた場所や種類などを分析し、どうすれば環境負荷を

無くせるかを考えた。同村水源課の職員は水源地の村として環境保全に取り組み村の方針を説明。特に昨年4月以降は、河川敷や山林周辺での火の使用▽ゴミの放置▽水を汚す行為を「しないでください」と啓発している。

同村の環境教育施設「森と水の源流館」の職員は村内の放置ゴミの実態を写真で紹介。1日のパトロールでパーベキューの焼き網30枚を回収したり、未使用の調味料などが捨てられていたり。参加者は「どうして

〜?」と驚き、ため息をついた。大淀町の会社員大西延和さん(42)は「川上村にはかけがえのない自然があ

り、水もおいしい。参加することでも恩返しができる」と話した。

①流域に生息するトンボは鮮やかな青、黄緑など色も様々②上流から河口付近まで生息する多様な姿のカニ(いずれも川上村)

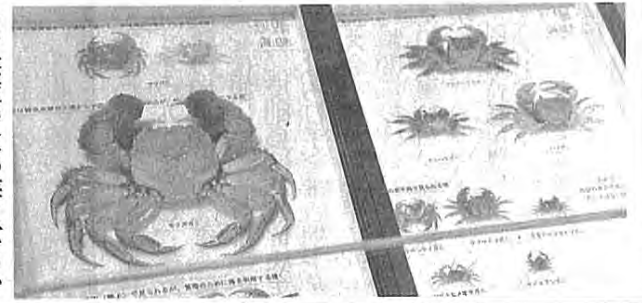


河川の生き物 身近に感じて

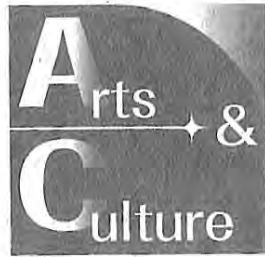
川上で企画展 トンボの標本など

吉野川源流から紀の川河口まで136キロにわたる流域に生息するトンボや魚、カニの標本116点を集めた企画展「吉野川・紀の川流域の生きもの」が、水源地にあたる川上村の「森と水の源流館」で開かれている。環境に適応した生物の多様性がわかる。10月1日まで。

源流の清流にいるカニ



カ、繁殖のため海に下り、食用にもなるモクズガニなど、多彩な生きものを紹介。



イワナは外来種に分類されるという。企画した館職員古山暁さん(42)は「様々な環境に合わせた生き物が身近にいることを知ってほしい」と話す。

水曜休館。入館料は一般400円、小中学生200円。問い合わせは源流館(0746・52・0888)。

間伐作業の見学 など参加者募集

川上で来月23日

川上村宮の平の「森と水の源流館」は11月23日に同村神之谷三之公の「林業体験の森」で開くイベント「源流学」の森づくりの参加者を募集している。親子で間伐作業の見学と丸太切りを体験し、昼食はジビエや山菜などのお弁当を楽しむ。

午前9時半から午後4時半。同館集合・解散。参加費は大人6千円、小中高生4500円(昼食代込)。小学生以上対象で定員40人。23日締め切り(必着)。申し込み・問い合わせは同館、電話0746(52)0888。

同館の古山暁主事は「川上村には吉野林業の歴史があり、人工林を育てることで天然林が守られてきた。森づくり体験から先人たちが守り育ててきた吉野林業の森を身近に感じてほしい」と呼びかけている。

吉野川の自然 輝くジオラマ

川上 森と水の源流館でイルミ



森のジオラマを照らすイルミネーション（川上村で）

川上村の「森と水の源流館」で、吉野川源流の森を再現したジオラマをイルミネーションで照らす「モリナリエ」が開かれている。せせらぎに集まる動物たちが色とりどりの明かりに映え、物語の世界のようだ。

森の動物の剥製が照らされる「モリナリエ」＝川上村迫



「モリナリエ」水源地に光

川上村の「森と水の源流館」が、館内の森のジオラマをイルミネーションで照らす「モリナリエ」を開催している。来年2月27日まで。

同館には吉野川の源流の森を再現したジオラマがあり、モリナリエでは川筋にあたる部分に赤、黄、緑の電飾を施した。期間中は部屋の照明を暗くしており、周りにあるツキノワグマやキツネ、シカ、イノシシなど、森にすむ動物の剥製が

川上・森と水の源流館

照らし出される。ジオラマにはトガサワラという珍しい樹木の標本もあり、同館は「写真撮影もOKなので、イルミネーションを楽しみながら水源地の大切さを学んでもらいたい」と話している。

水曜日と29日～来年1月3日は休館。開館は午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）。入館料大人400円、小中学生200円。問い合わせは同館（0746・52・0888）へ。（上田真美）

巨木の標本を置いて再現した「源流の森ジオラマ」を通常より暗くし、沢の部分にクリスマスツリー用の照明を敷いた。周りに源流域にすむキツネやアナグマ、ツキノワグマ、子シカなどの剥製を配置して、夜の水場の風景を表した。企画した館職員の木村全邦さん（51）は「森にはいろんな生き物がいることを知ってもらえたら」と話す。

2月27日までで水曜休館。入館料は一般400円、小中学生200円。問い合わせは森と水の源流館（0746・52・0888）。

吉野川流域の魅力を書いたシールを貼る参加者（右）と松田さん（川上村で）



吉野川 隠れた魅力みつけ

川上 流域の自然や歴史語らう

吉野川流域の自然や歴史の魅力を語り合うイベント「さがそう『吉野』の宝もの」が17日、源流域にあたる川上村の「森と水の源流館」で開かれた。村内外の23人が参加し、「川沿いの紅葉」「鏡のような水面」など、地域の隠れた魅力を再発見した。

吉野地域の歴史や文化を調べている大淀町教育委員会学芸員・松田度さん（49）、コケが専門の館職員・木村全邦さん（51）が司会

役となり、それぞれ実例を挙げた。

松田さんは、山で切り出した木材を川で流した筏流しが1960年頃に途絶えながら、ほとんど記録されていないとして「文化財として公に認められたもの以外にもレガシー（遺産）はたくさんある。本当の魅力を再発見してみましよう」と呼びかけた。

参加者は「かつて筏師のおやつだった焼き餅」「サングの化石」など流域の自然や文物をシールに書き、地図に貼っていった。「名前の付いた滝がたくさんあるのも魅力」「地域の人への聞き取りが大事」などと話し合った。木村さんは「自慢の種がいっぱいあると共有できた」とまとめた。

子育て応援団ブログ

イベントレポート/川の始まりはどんなところ？/和歌山市民の森・源流体験学習会（奈良県川上村）

2024/2/22 地域リポーター



最近、息子と「紀の川」について学ぶ機会がありました。

紀の川は全長約136キロメートル。「大台ヶ原」を源流として奈良県では「吉野川」、和歌山県に入ると「紀の川」と名前が変わり海へとつながっています。

川について学ぶ中で、息子に「山に雨が降って川となり、海に流れて、また雨になることを繰り返す」と水の循環について説明しました。

すると息子から「川の始まりってどんなところなの？」と質問が。

この質問にうまく答えられず、私自身も川の始まりを見たことがないと気づきました。

そんな時に和歌山市報で知ったのが、「和歌山市民の森づくり・源流体験学習会」です。

紀の川・吉野川上流の奈良県川上村にある「水源地の森」を散策するイベントで、私は「川について学べるよい機会だ」と思い、早速申し込みました。

危険生物対策は必須



学習会が開催されたのは10月。

わが家は9月下旬に、学習会に参加できるという通知を受け取りました。

資料には当日のスケジュールとともに、散策ルートには危険箇所があることや、危険生物についての注意を促す説明文がありました。



早速、森に入っていきます。

丸太の橋を渡って奥へ進んだ先に、500年以上前から手つかずの天然林がありました。

ここでは、森と森をつくる生き物たちを守ることを目的に、動植物の採取は禁止されています。



遊歩道として整備されたコースはありませんが、ガイドさんが安全に歩ける場所を案内してくれます。



森の奥には、川に近づくことができる場所がありました。



スタッフさんから「よどんでいない、きちんと流れている水」をくむように説明を受け、息子が持参していたペットボトルに水をくみました。

水源地の村から流域つなぐ

ESD推進

— 水源林を保全、環境学習拠点も整備 —



公益財団法人
吉野川紀の川源流物語事務局長

● 尾上 忠大

『川上宣言』に基づく村づくり
真の流域連携を目指して

奈良県川上村は、県南東部にあり、紀の川の最源流部に位置する。かつては吉野林業を基幹産業とし、最盛期には8000人を超えた人口は156人、高齢化率55・5%（2020年国勢調査）となっている。



森と水の源流館



源流から海まで恵みをつなぐ「紀の川じるし」



和歌山市内の漁港で児童が源流の学習を発表

国土交通省が建設した大滝ダムは、計画当初から50年以上の歳月をかけた2013年に運用を開始。またそれ以前の1973年には大和平野に向けた農業用水確保のため大迫ダムが完成している。

川上村はダム後を見据えた「水源地の村づくり」に取り組んできた。その理念を『川上宣言』としてあら

わしており、これを村是と位置づけられている。この宣言は5か条からなり、「私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します」また「自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます」など、村が大切にすべきことや指針を示している。

『川上宣言』の具現化の第一歩に、村は源流部に残った手つかずの天然林を買い取り「水源地の森」として保全。あわせて環境学習の拠点となる「森と水の源流館」を設立した。当法人では20年にわたり、館の管理・運営を担ってきた。

豊かな自然、きれいな水を懸命にPRしてきたが「きれいな水がありがとう。川上村がんばってね！」だけではダメという意識があった。2014年、海のない奈良県で開催された「全国豊かな海づくり大会」を弾みに紀の川や農業用水によるつながりをより実感する。真の流域連携を目指す活動を進めてきた。

地域の人や素材生かし 小中学校の総合学習を支援

ESD (Education for Sustainable Development) は「持続可能な社会の創り手を育てる教育」とも言われる。それまでの活動の中で出会った環境

省の中間支援機関や奈良教育大学のキーパーソンの助言により、水源環境の保全と流域連携の展開にこのESDを掲げた。そして、小中学校の「総合的な学習の時間」の授業づくりで役割を担い、地域の素材や人材を提案しながら、いっしょに山や森を守り、未来へつなげていくことを考える、いわゆる「自分ごと」に至る学習を支援した。これは奈良教育大学が主催する近畿ESDコンソーシアムの「森と水の源流館ESD授業づくりセミナー」として、広域かつ多様な教育機関、企業・団体が参加するしくみとなっている。

先生らは『川上宣言』やダムのこと、流域の恵みをつなぐ「紀の川じるし」の発想とともに、河川や海のゴミ問題を教材とした授業づくりと実践を行う。その中で、川上村の役員職員や村民も講師として活躍する。毎年度末に行う授業実践報告会には村長が参加し、共有している。みんなで地域資源を見つめ直し、教材化し、みんなで課題解決を考え、行動化につなげる。この取り組みは県境を越えて、和歌山県内との連携も強めている。

この度の表彰を機に、ますますESDの概念を広め、つながりに気づく機会を創出し、みんなで源流と流域の価値を高め、未来へ持続するよう努めていきたい。

吉野川紀の川源流物語

2023年度ふるさとづくり大賞団体表彰の受賞を報告する尾上事務局長(左)、川上村追のホテル杉の湯



つながり大切に

23年度ふるさとづくり大賞を報告

川上村の「森と水の源流館」を管理運営する公益財団法人「吉野川紀の川源流物語」の2023年度ふるさとづくり大賞団体表彰の「受賞記念報告＆ランチ交流会」が16日、同村追のホテル杉の湯で開かれ、関係者ら約40人が参加した。

同賞は、全国各地で「ふるさと」をより良くしようと積極的に取り組んでいる団体、個人に贈られる総務大臣表彰。同法人の地域資源を教材化したESD(持続可能な開発のための教育)の推進活動などが評価された。

報告会では、同法人の尾上忠大事務局長が、20年以上取り組んできた水源地の森の保全、流域や都市部との交流・連携活動について振り返り、「つながりを大

切にし、村民らの共感を得ながら活動してきたことが評価されたい」と思いを語った。

2015年からは、豊かな自然ときれいな水をみんなで未来へつなげる行動化のため、ESDに着目し、17年から「ESD授業づくりセミナー」をスタート。県内外の学校教員とともに川上村の自然や理念、流域などを教材化してきたことなどを報告し、「人が育てば産業、地域が生きる、続く」と強調した。



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平

電話 0746-52-0888 FAX0746-52-0388

<http://www.genryuu.or.jp> e-mail: morimizu@genryuu.or.jp